

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	白内障手術における強化型単焦点眼内レンズ挿入後の視機能への影響		
② 実施予定期間	実施許可後から 2028年3月31日		
③ 対象患者	対象期間中に当院で白内障手術を受けられた50歳以上の患者さん		
④ 対象期間	2021年10月1日から2024年3月31日 追跡期間：2024年5月31日まで		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	眼科		
⑦ 研究責任者	氏名	木村 和博	所属 山口大学大学院医学系研究科眼科学
⑧ 使用する情報等	<p>研究対象者背景：識別コード、白内障手術時年齢、生年月、性別、併存症、既往歴、現病歴</p> <p>眼科検査結果：手術前および術後1か月目の視力（遠見矯正/非矯正、中間矯正/非矯正）、眼圧、屈折、眼科検査所見、眼軸長、前房深度、角膜曲率半径、コントラスト感度、カルテに記載された患者さんの自覚症状（見え方の満足度、眼鏡依存頻度、羞明症状の有無）</p> <p>目標屈折値（術前のみ）、屈折予測誤差（術後のみ）</p> <p>治療法：術式、手術年月日、使用した眼内レンズの種類と度数</p>		
⑨ 研究の概要	<p>白内障は、眼の中にある「水晶体」というレンズが濁ることで、見えにくくなる病気です。年齢とともに起こりやすくなり、50歳代頃から増え始め、60歳以上では多くの方に見られるようになります。白内障の根本的な治療としては手術が必要で、現在は濁った水晶体を取り除き、代わりに人工のレンズ（眼内レンズ）を入れる手術が一般的に行われています。</p> <p>白内障手術は、これまでは「見えにくくなった視力を回復させること」が目的でしたが、近年では遠く・中間・近くと様々な距離ができるだけ快適に見えることが求められるようになってきました。白内障手術で一般的に使われている「単焦点レンズ」は遠くにはピントが合いやすいですが、パソコンや料理、買い物などでの中間距離の見え方は十分でない場合があります。スマートフォンやタブレットを使う機会の増えた現在、この中間距離の見えやすさはとても重要となっています。</p> <p>遠くから近くまで幅広い距離が見えるレンズとして「多焦点レンズ」や「焦点深度拡張型レンズ」が開発されています。これらのレンズは幅広い距離が見えやすく、眼鏡が不要になる可能性がある代わりに、光がまぶし</p>		

	<p>く感じたり、光の周りが滲んでみえたりする症状が出やすく、見え方のくっきりさ（コントラスト感度）も低下すると言われています。</p> <p>近年、「強化型単焦点レンズ」という新しいタイプのレンズが登場しました。このレンズは従来の「単焦点レンズ」の自然な見え方を保ちながら、中間距離の見え方を改善することを目指したレンズです。海外の報告では従来の単焦点レンズよりも中間距離が見えやすいという結果が示されていますが、日本人の患者さんにおいては十分なデータがあるとは言えません。</p> <p>本研究では研究対象とする期間に当院で白内障手術を受けられた患者さんを対象に、「強化型単焦点レンズ」と従来型の「単焦点レンズ」の見え方を比較し、特に中間距離の視力やコントラスト感度、見え方の自覚症状について調査します。使用する情報は特定の個人が識別できないように加工して収集します。この研究によって、それぞれの患者さんの生活スタイルや希望に合わせて、より適した眼内レンズを選ぶために必要な情報が得られる可能性があります。</p>		
⑩ 実施許可	実施許可日	2026年 4月 13日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	山口大学医学部眼科学教室の奨学寄附金		
⑯ 利益相反	ありません。関連する企業からの寄付金の受け入れもありません。		
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 眼科 担当者：太田 真実		
	電話	0836-22-2278	FAX 0836-22-2334